



長野県生物多様性センターが開設されました

長野県に「生物多様性センター」が開設されました！

長野県には、私たちの行動次第で失われてしまうかもしれない、そして未来へ向けて回復させることのできる豊かな生物多様性があります。

今回の特集では、生物多様性の基本的な考え方から、私たちの暮らし・文化とのつながり、さらには地域での活用や保全の取り組みまで、基礎から応用まで幅広く紹介します。人の暮らしを支え、地域の魅力を形づくる生物多様性。それを守り、未来へ引き継ぎ、さらに豊かにしていくためには、一人ひとりがその価値を深く理解することが第一歩となります。

(黒江 美紗子／自然環境部)



そもそも生物多様性ってなんだっけ？

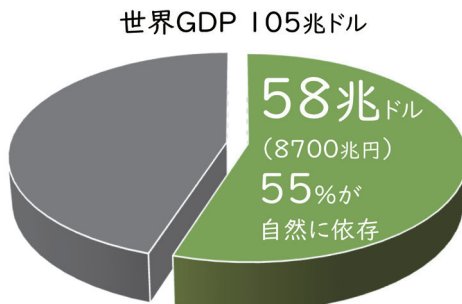
生物多様性とは、単に「生きものの数が多いこと」だけを指す言葉ではありません。それは、食料や水の供給、災害の防止など、私たちの生存基盤そのものを支える巨大なシステム（生態系）の健全さを表す指標です。

私たちが日々口にする農作物は、野生種からの品種改良や、昆虫による受粉（花粉媒介者の働き）なしには成立しません。森林の土壌は雨水を蓄えて洪水を防ぎ、多様な微生物が水を浄化します。また、フクロウの羽の静音構造やハスの葉の撥水性など、生物が進化の過程で獲得した「機能」は、最新技術（バイオミメティクス）の源泉として産業にも応用されています。これら自然からの恩恵を「生態系サービス」と呼びます。

長野県の急峻な地形と複雑な気候は、多様な生態系を育み、豊かな恵みを私たちにもたらしてきました。しかし、構成要素である生きものが失われていけば、このシステムのバランスが崩れ、私たちの暮らしも脅かされます。このことは、世界中で危惧されています。生物多様性を守ることは、自然保護であると同時に、私たちの豊かで安全な生活を持

続させるための、最も合理的な投資なのです。

(高野 宏平
／自然環境部)



図：私たちの暮らしは、衣・食・住のすべてにおいて自然からの資源を得ています。PwC（2023）の分析によると、世界のGDP（国内総生産）の半分以上にあたる約55%（約8,700兆円）が、自然の恵みに支えられているとされます。自然が失われることは、私たちの経済基盤そのものが脅かされることを意味します。（WBCSD（持続可能な開発のための世界経済人会議）（2021）What does nature-positive mean for business?、Stockholm Resilience Centre、VISUALTHINKING を元に作図・和訳）

